

少子高齢化社会の安心対策特別委員会記録

1 会議の日時	<p>令和5年2月28日</p> <p>開 会 午前 9時58分</p> <p>閉 会 午前10時26分</p>	
2 会議の場所	第3委員会室	
3 出席者	委員	<p>委員長 尾藤義昭 副委員長 水野正敏</p> <p>委員 森正弘 松岡正人 山本勝敏</p> <p>高殿尚 水野吉近 長屋光征</p> <p>中川裕子 今井政嘉</p>
	執行部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	<p>課長補佐 久富英材</p> <p>主 査 朝熊眞一</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1. 提言について 2. その他	

6 議事録（要点筆記）

○尾藤義昭委員長

ただいまから、少子高齢化社会の安心対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、提言について協議いただくため、開催したものである。

当委員会は、重点調査項目である「少子高齢化社会の安心対策の推進に関すること」に基づき、テーマを絞り込んだうえで、調査検討を行ってきた。

当初は2年間を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、視察を始めとした調査が十分できない状況にあることを踏まえ、調査期間が2年間延長され、本年が取りまとめの年となっているところである。

本日は、4年間の調査検討を踏まえ、提言としてとりまとめたい。

それでは、審議に入る。

提案の文案については、あらかじめ配付したところであるが、この文案は、令和3年3月に取りまとめた中間報告をもとにして、視察など委員会での活動内容を追加して作成したものである。

何か意見等はないか。

○長屋光征委員

視察した岡山県奈義町は、少子化対策として大変素晴らしい取組をされており、岐阜県も同様に取組を進める必要があると考えるが、子ども・女性局の所感は。

○村田子ども・女性局長

県内市町村においては、それぞれの特徴に応じた女性の活躍や少子化対策などの取組を行っていただいております。奈義町のような優良事例を展開しながら、市町村を支援していきたい。

○長屋光征委員

奈義町は役場職員の熱意が、国や県、町議会、地域を動かしている。子ども・女性局に限らず県職員もそのような熱意で取り組んでほしい。

○水野吉近委員

買物弱者対策について、県内の社会福祉協議会が行っている支援事例を教えてください。

○森地域福祉課長

川辺町社会福祉協議会では住民ボランティアによる買物代行サービス、七宗町社会福祉協議会では買物支援バスを運行し、スーパーや銀行などへの送迎を行っている。

○水野吉近委員

他県の市町村の取組で、介護事業者が送迎車を活用して、自身で買物に行けない高齢者をスーパーまで乗せていき、高齢者自身が買物をするにより、ストレス発散や介護予防につながっているという事例を聞いたことがある。

県内において、こうした買物支援と介護予防を組み合わせた取組を行っている事例はあるか。またこういった取組を県として支援しているか。

○有田高齢福祉課長

県内においてはそういった事例は承知していないが、今後、研究していきたい。その上で、指摘のような事業を行う事業者等への支援について改めて検討させていただきたい。

○水野吉近委員

とても良い取組だと思うので、是非調べていただきたい。

○松岡正人委員

公共交通機関の維持確保のために、利用者が一層利用しやすい環境をつくり、採算性を確保することが重要。提言に「利用して残す」という趣旨の文言を追加してはいかがか。

○佐藤公共交通課長

利用者を増やすという観点は大変重要と考えている。地方の公共交通機関の多くは赤字が前提であり、そこに対して行政が支援するスキーム。利用者を増やし、赤字を減らすことが地域公共交通の維持確保につながると考えている。

○松岡正人委員

少子化やコロナが影響し、公共交通機関の利用頻度が下がっている。県民に対して「利用して残す」ということを再周知しながら路線を維持することは非常に大切なことだと考える。

○中川裕子委員

岐阜バスが平日の時間限定で乗り放題となる「昼得きっぷ」を500円で販売しており、これを利用して高齢者の方がバスに乗車するようになったと聞いている。

このような好事例を研究し、横展開等が必要だと考える。岐阜バスの取組を承知しているか。また、どのように評価するか。

○佐藤公共交通課長

岐阜バスの取組は承知している。定額制の乗車券は岐阜バス以外の事業者でも行われており、利用者を増やすという目的においては非常に有効だと感じている。

一方で、価格設定については事業者ごとの考え方があり、設定額によっては利用頻度が期待するほどは高まらないこともある。MaaSにもつながるものであり、どのような形が望ましいか、各事業者と一緒に検討していきたい。

○中川裕子委員

ワンコインの価格設定が好評と聞いている。高齢者の外出の機会も増え、生活支援の観点からも良い取組だと思うので、ぜひ広げてほしい。

奈義町の取組で印象的だったのは、子育て支援が住宅費、教育費、給食費、医療費、通学支援等、切れ目なく実施され、子育て世代にトータルな安心感を与えているということ。

また、子育て世代と高齢者世代を分け隔てなく支援することも大切であることから、子育て支援は高齢者への支援にもつながるという視点を、岐阜県も取り入れてほしい。

○長屋光征委員

奈義町が就学支援の一環で高校生のバス定期券に対する補助を行っている。県は市町村の取組に対して補助しているか。

○佐藤公共交通課長

県としては定期券への助成は行っていない。

○長屋光征委員

市町村が取り組むことが大前提だが、奈義町の事例を通して、公共交通機関の乗車率の向上、さらには子育て世帯への経済支援という観点から、定期券補助に取り組む市町村に対して支援することは有効だと感じている。県でも縦割りではなく、部局横断的に取り組んでいただきたい。

○高殿尚委員

一部の高校において県外からの生徒を受け入れ始めて4年目、5年目となる。受け入れた生徒の卒業後の進路として、県内に定着を図っていくことが大事である。卒業後の進路を分析し、改善内容を検討し、次の入試の参考にしてほしい。

○尾藤義昭委員長

意見も尽きたので、発言の趣旨を踏まえ、提言の文案については、正副委員長に一任いただきたいが、これに異議ないか。

(「異議なし」の声あり)

○尾藤義昭委員長

異議がないので、そのように取り扱う。

本日審議した提言は、委員会の調査結果に基づくものであることから、3月16日の本会議における委員長報告は、提言の内容を抜粋して行う。その文案については、正副委員長に一任いただきたいが、これに異議ないか。

(「異議なし」の声あり)

○尾藤義昭委員長

異議がないので、そのように取り扱う。

なお、本日審議した提言は、議会閉会后、知事に対して手交のうえ報告を行うので、承知おき願いたい。

以上で、本日の議事は終了したが、ほかに何か意見等はないか。

また、執行部は何かないか。

(発言する者なし)

○尾藤義昭委員長

意見も尽きたようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

少子高齢化社会の安心対策特別委員会配席図

